

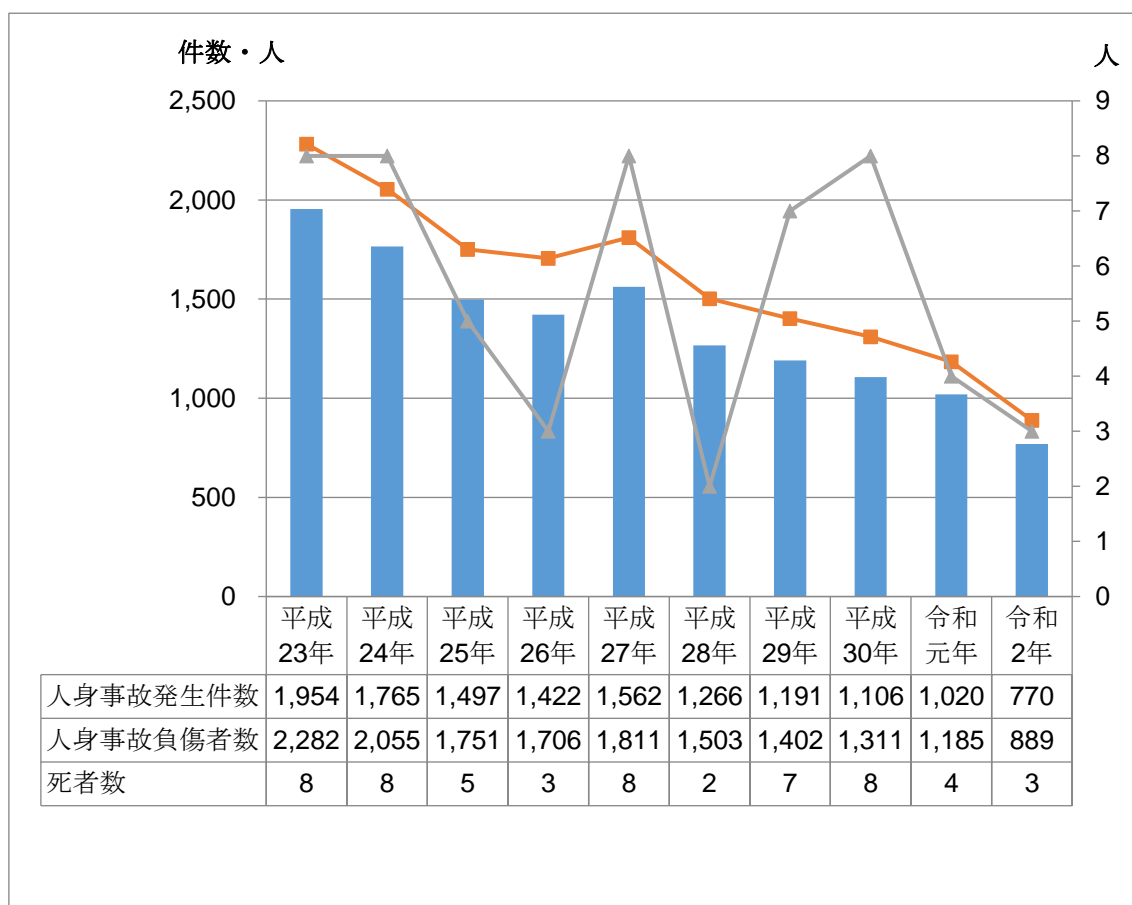
第2章 交通事故等の状況

1 道路交通事故

(1) 道路交通事故の状況

令和2年中の全国の交通事故死者数は、4年連続で戦後最少を更新して、初めて3,000人を下回りました。埼玉県内の交通事故死者数は、平成22年に200人を下回って以降、横ばいで推移していましたが、平成28年には151人、令和元年には129人と減少し、令和2年中の死者数は121人で昭和29年以降最少を記録しました。

所沢市の交通事故死者数は、平成20年に7人になって以降、10人以下を継続しており、平成28年には昭和39年に統計を取り始めて以来、最少の2人となり、令和2年は3人でした。

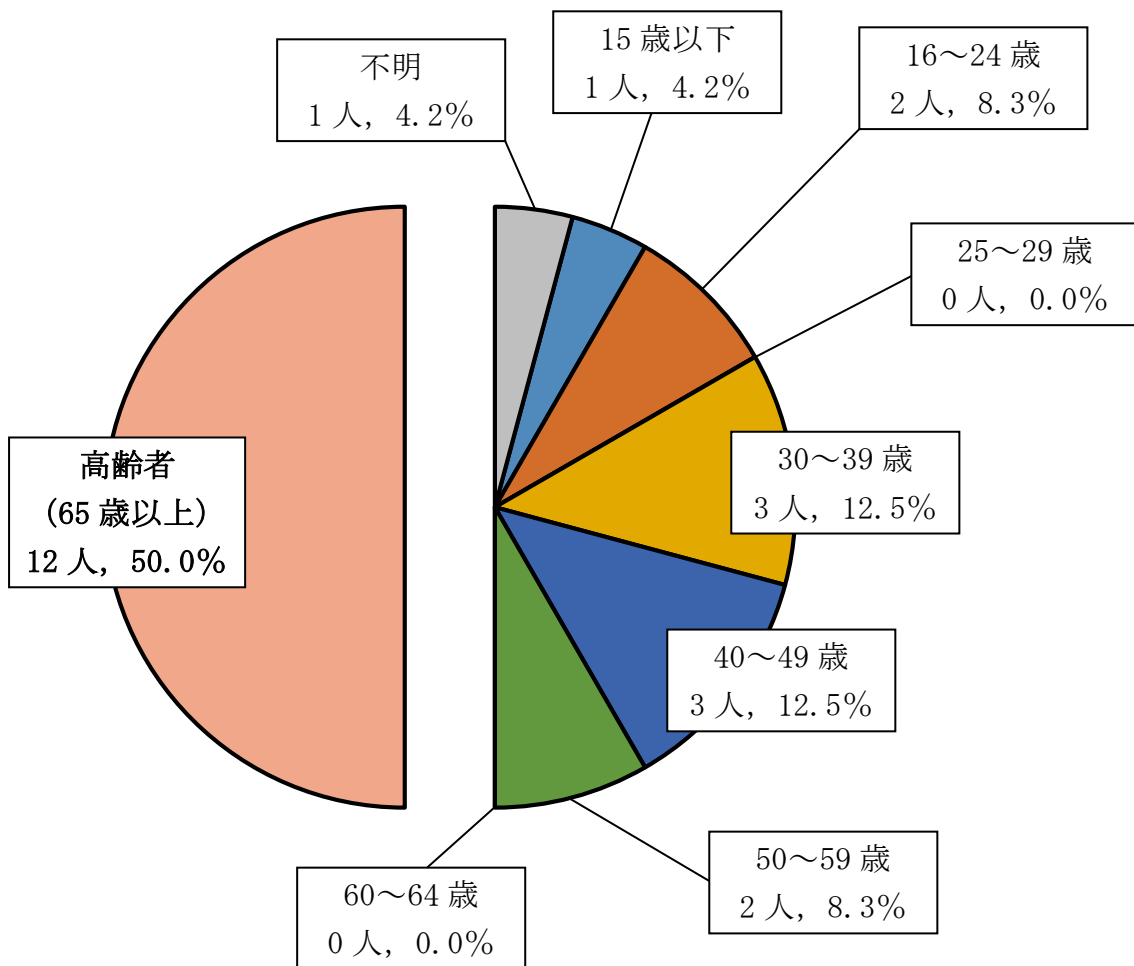


交通事故発生件数等の推移

(2) 所沢市における道路交通事故の特徴

ア 交通事故死者の半数は高齢者

我が国では65歳以上が28%を超えた超高齢社会に突入し、高齢者の関わる交通事故が多発しています。所沢市における直近5年間の交通事故による死者を年齢別にみると、全死者の半数にあたる12人が高齢者(65歳以上)であり、高齢者の交通事故死者の多さがうかがえます。

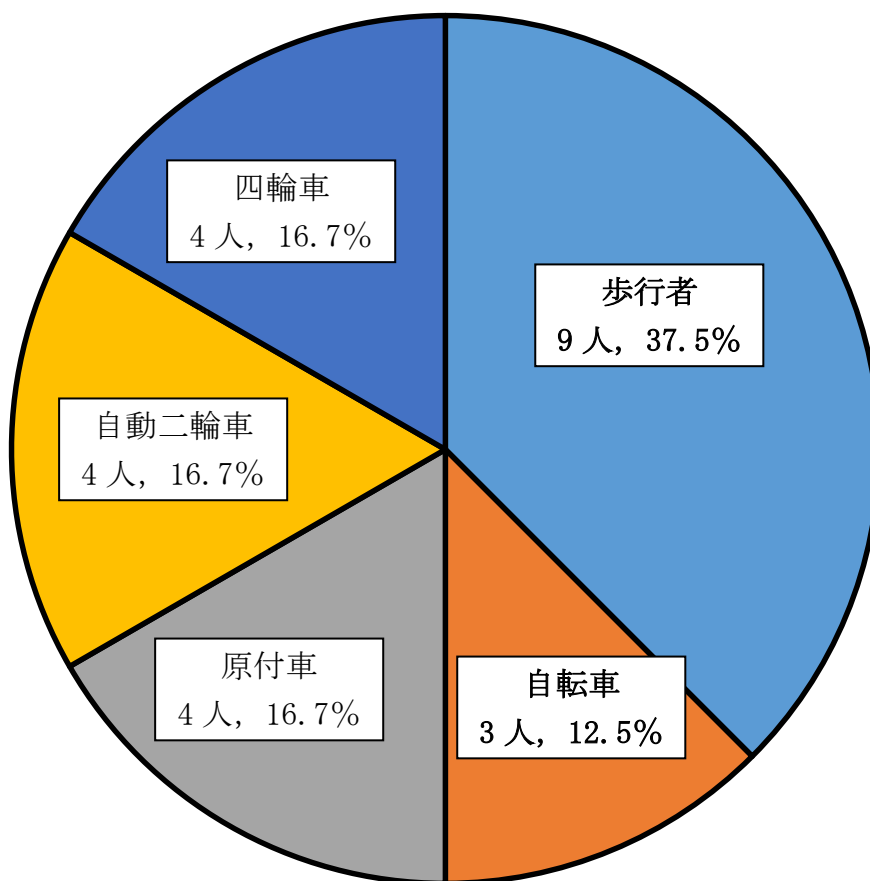


過去5年間の年齢別死者数構成率 (%)
(平成28年～令和2年)

イ 自転車・歩行者事故の多発

埼玉県は全国第3位という、高い自転車保有率であり、所沢市においても、自転車が市民の移動手段として広く利用されており、このことに伴って、自転車の関係する事故が多発しています。近年、交通事故による自転車乗用中の負傷者数は300人台で推移するとともに、直近5年間の死者の約12%にあたる3人が自転車乗用中に亡くなっています。

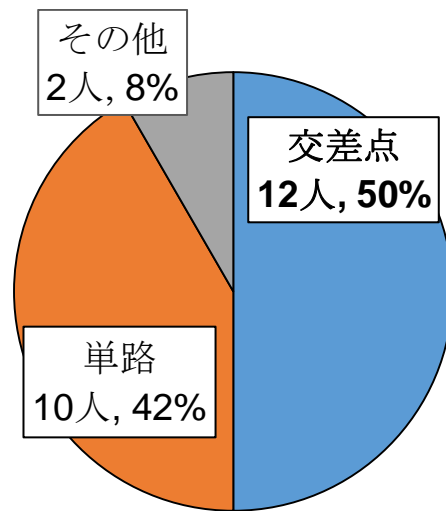
また、自転車と比較して弱い立場にある歩行者の死亡事故が最も多く、直近5年間の死者の約37%にあたる9人が歩行中に亡くなっています。



事故状態別の交通事故死者数構成率 (%)
(平成28年～令和2年)

ウ 交差点で交通死亡事故が多発

道路形状別にみると、交通死亡事故は単路に比べ交差点（付近を含む）での発生率が高く、直近5年間の道路形状別における交通死亡事故では、交差点における交通死亡事故が全体でもっとも多くを占めています。



道路形状別における交通事故死者構成率 (%)
(平成28年～令和2年の5年間)

2 鉄道・踏切事故

所沢市では平成22年以降、列車の衝突や脱線等の鉄道事故は発生しておらず、また踏切内で発生した、列車の関わらない交通事故も3件以下となっています。

鉄道・踏切道事故の発生件数 (単位：件)

区分 \ 年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
列車の衝突事故	－	－	－	－	－
列車の脱線事故	－	－	－	－	－
踏切内の事故	1件	1件	1件	－	－

3 第10次所沢市交通安全計画期間の検証

第10次所沢市交通安全計画では、市内において令和2年（平成32年）までに、「年間の交通事故死者数を4人以下」「人口10万人当たりの交通事故死傷者数を366人以下」とすることの2つの目標を設定し、各種交通安全対策に取り組みました。

交通事故死者数は、平成28年は2人で、統計のある昭和39年以降では最も少ない人数とすることができましたが、平成30年には8人となるなど、交通事故による死者数は各年増減が繰り返されている現状です。

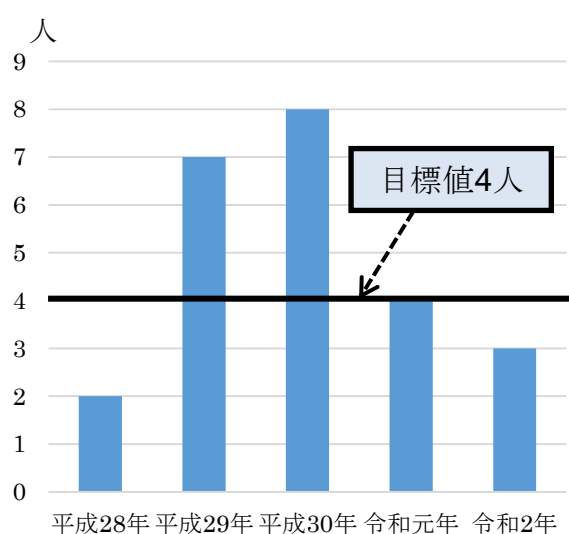
また、人口10万人当たりの交通事故死傷者数も減少傾向にあり、令和元年には344人と目標以下となり、令和2年には目標より108人少ない258人となりました。

鉄道及び踏切事故については、「事故件数の確実な減少により死傷者数の減少を目指す」ことを目標としました。事故発生件数も極めて少ない状況となっています。

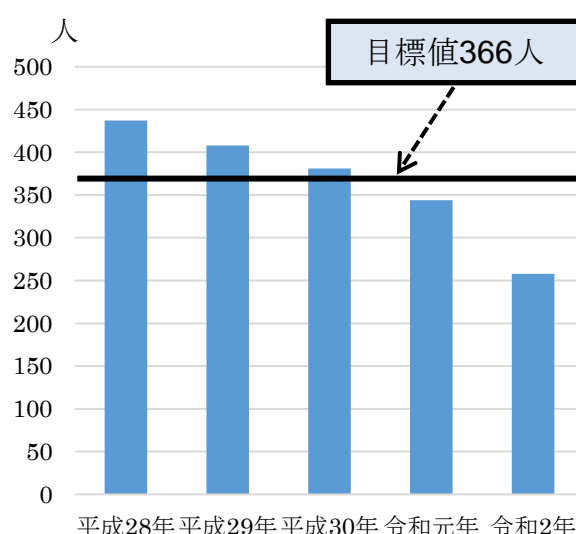
死者数と人口10万人当たりの死傷者数の推移 (単位：人)

区分	年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
死者数		2	7	8	4	3
人口10万人当たりの死傷者数※		437	408	381	344	258

※算出式：死傷者数 ÷ 市人口（各年12月末日データ） × 10万人



死者数の推移



人口10万人当たりの死傷者数の推移

4 今後の課題

本計画では、所沢市の交通事故の特徴である「高齢者の事故」、「自転車・歩行者の事故」、「交差点における事故」の防止を重点課題として、交通安全対策を推進します。

「高齢者の事故」では、本市において高齢者の事故が多発している状況にあり、今後は、高齢者人口の増加に伴い、高齢運転者に起因する交通事故の比率が高まることが考えられるため、より一層の対策が必要です。

「自転車・歩行者の事故」では、直近5年間の交通事故死者の50%が自転車乗用中及び歩行中に事故に遭われていることから、自転車利用者、歩行者に対する交通安全教育や安全な道路、安全施設の設置等、対策が必要です。

「交差点における事故」では、直近5年間の交通事故死者の50%が交差点において事故に遭われていることから、その対策が必要です。それに加え、所沢駅周辺の開発や、ところざわサクラタウン・所沢市観光・情報物産館「YOT-TOKO（よっとこ）」の開設等により、人や車等の動きがより多くなると見込まれ、また、中心市街地の混雑を緩和するための環状道路の建設など、本市の交通環境が大きく変化する計画が進行しています。そのため、増加が見込まれる歩行者等の安全対策や、自家用車の利用を抑えるといった、その状況に対応した交通安全対策を推進し、交通事故防止に努めることが求められます。

